

Slovenia Monthly June 2020

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2020年7月15日



～6月の主なポイント～

- 内政： ホイス内務大臣の辞任表明
- 外政： ブレッド戦略フォーラム，本年は8月31日に開催
- 経済： S&P，スロベニアの格付けを「AA-」で据え置き
- 治安： スロベニア外務省，海外渡航中止勧告を引き下げ
バス及び鉄道の国際線運行再開
- 社会： 国民議会，9月23日を「スロベニア・スポーツの日」に設定

政治

【内政】

●カンタルティ経済開発・技術副大臣の辞任 【4日】

カンタルティ経済開発・技術副大臣は、6月中旬をもって副大臣の座を辞任すること表明した。本件に関し、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、「カンタルティ副大臣は、本年3月の新政権発足前に副大臣の職を離れて民間に戻る決意を固めていたが、新型コロナウイルスの発生を受けて、収束まで政府に留まることを決断していた」と述べたほか、「副大臣離職の決断は、政治的な理由によるものではなく、また、いかなる対立が原因でもない。重要なことは、我々が引き続き良好な関係を維持し、(今後も)いつでも彼に頼ることができるという点である」と述べた。



(Photo: Anže Malovrh/STA)

●国民評議会議長の再任【10日】

10日、国民評議会(上院)において、議長選出に関する投票が行われ、現職のコウシュツァ議長が賛成多数で再任された。同議長は、今回の投票において唯一の候補者であった。再任を受け、コウシュツァ議長は、「前期の自身の業務に対し評価を得ることができた。今後も国民評議会におけるデジタル化の促進や、2021年後半のスロベニアのEU議長国任期での国民評議会の活動促進を含め、引き続き公正さを維持しつつ、議長の役割を全うできるよう努力する」と抱負を述べた。なお、国民評議会の任期は5年であるが、法律の規定により、議長に関しては任期は2年半であるため、今般投票が行われたもの。

●経済開発・技術大臣に対する解任動議の否決 【11日】

11日、5月初旬に新型コロナウイルス対策における防護具の調達に関する問題に対する責任を問い、野党4党が提出したポチヴァルシェク経済開発・技術大臣に対する解任動議の投票が行われ、賛成37票、反対51票で否決された。同投票では、連立与党の議員46名のほか、少数民族代表議員2名及び野党国民党(SNS)議員3名が大臣留任を支持し、反対に回

った。15時間にわたる審議において、野党は、調達システムの不透明性を指摘し、感染症の流行初期に、スロベニアの医療機関が所有する人工呼吸器の数を実際よりも少なく発表し、深刻な医療機器不足の事態を装ったとして批判した。また、野党側は、結果として、政府は国内企業との高額な調達契約を結んだとして、特定の企業との契約を承認した同大臣の縁故主義的な行動を批判し、同大臣は命令に従っただけである可能性があることを認めながらも、それでも責任があると強調した。これに対し、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、野党側の主張は悪質で誇張した嘘であるとして非難し、発表した人工呼吸器の数は保健省からの報告に基づくものであり、また、外国企業との直接調達が可能であると述べたことは一度もなく、他方で、政府は仲介者を使用することにより、あらゆる契約リスクを回避できたと主張した。また、否決を受けて、同大臣は、「今後は、新型コロナウイルス流行からの経済復興に向けて、政府は一丸となって取り組んでいく」と抱負を述べた。

●ホイス内相が辞任を表明【30日】

30日、ホイス内相が辞任を表明した。本件辞任の背景には、新型コロナウイルスに関する人工呼吸器調達に係る疑惑があり、30日、警察当局は本件疑惑の関係者に対する家宅捜索を実施したが、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣も本件家宅捜索の対象となり、家宅捜索中に自由を奪われた状態となった。

ホイス内相は、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣も対象となった本件捜査に関し、この家宅捜索は政治的動機に基づいたものであり、プロセスも政治的なものであったとして、このようなことが起こった責任は内務大臣である自分にあると述べ、政治的責任をとって大臣を辞任する意向であるとの述べ、ヤンシャ首相に辞表を提出したと述べた。また、同大臣は、自分は大臣として、警察業務に介入したことは一度もなく、全ての犯罪は捜査されるべきであると考えているが、警察の動きが、警察長官を始めとする警察組織全体ではなく、多くのケースで政治的な敵対者、つまり(ホイス内相が所属する民主党(SDS)を含む)右派勢力に対して捜査を向けていた検察やメディアにより決められていることを看過することはできないと述べ、彼らの唯一の目的は、現政権の首相や閣僚の評判を落とし、連立政権を崩壊させ、(現野党の)社会民主党(SD)が参加していた中道左派政権時代に享受していた特権を維持することであると述べた。

【外政】

●イタリア外相のスロベニア訪問【6日】

6日、ディ・マイオ外相がスロベニアを訪問し、ロガル外相と会談を行った。両外相は、新型コロナウイルス感染予防対策の緩和に関し、両国間の緊密な調整が重要である旨一致し、ロガル外相は、イタリアにおける感染状況を日々モニタリングし、欧州委の提言に沿って、6月15日までにイタリアからスロベニアへの入国制限措置の緩和が実現するよう取り組んでいくと述べた(注:その後、スロベニア政府は6月15日に自由往来国にイタリアを追加した)。また、両外相は、EU経済、公共財政、その他の新型コロナウイルス流行の影響への取組み等について意見交換を行った。特に、両外相はEU次期多年度財政枠組み(MFF)及び復興基金設立に関する欧州委の提案について議論し、ロガル外相は、MFF及び復興基金に関して早急な合意がなされることが望ましいとの見解を示した。また、二国間関係について、両外相は、今後、両国間の閣僚級調整会合の早期開催が望まれるとの認識で一致し、両国間の経済関係については、新型コロナウイルス危機からの復興を目指して、感染収束後には両国においてビジネス投資促進イベントを開催することで一致した。このほか、両外相は、両国の少数民族(イタリアにおけるスロベニア系住民及びスロベニアにおけるイタリア系住民)に関する課題、西バルカン及び地中海ルートを通じた不法移民の流入等について意見交換を行い、スロベニア・イタリア国境の共同パトロールに関する協力を歓迎した。



(Photo:スロベニア政府ホームページ (www.gov.si))

●ブレッド戦略フォーラム、本年は8月31日に開催【17日】

17日、ブレッド戦略フォーラム(BSF)事務局は、本年のフォーラム開催に関するプレスリリースを発表した。これによると、第15回となる本年のフォーラムは8月31日に開催し、テーマは「ポスト新型コロナウイルスの世界における機会と課題:パートナーかライバルか(Challenges and Opportunities in the Post-COVID-19 World Neighbours - Regions - Global World: Partners or Rivals?)」となる予定。また、本年は

新型コロナウイルス感染症の流行状況に鑑み、通常の2日間ではなく、1日のみの開催となり、また、開催方法としては、ハイブリッド方式を用いて、ハイレベル出席者によるメインパネルは登壇者を招いて現場での議論を行う一方で、その他のディスカッションの一部はオンラインで開催される予定。



(<https://bledstrategicforum.org>)

●ロガル外相、インド外相と電話会談【17日】

ロガル外相は、ジャイシャンカル・インド外相とビデオ会談を行った。ロガル外相は、新型コロナウイルスに関し、インド政府及び国民に対して連帯を表明するとともに、調整された行動及び相互の信頼等の重要性につき強調した。両者は、両国の良好な関係を評価し、両国間の貿易促進を呼びかけるとともに、両国の友好関係は昨年9月のコヴィンド・インド大統領のスロベニア訪問によっても確認されている旨述べた。

●ヤンシャ首相、欧州理事会ビデオ会合に出席【19日】

19日、ヤンシャ首相は欧州理事会の非公式ビデオ会合に出席した。同会合において、各国首脳は、EU・英国間の将来の関係に関する交渉の進捗状況について説明を受けたほか、多年度財政枠組み(MMF)に関する提案や新型コロナウイルスによる危機からの復興計画について議論が行われた。ヤンシャ首相は、復興計画の遅延は金融市場に悪影響を及ぼすとして、夏季休暇前に合意される必要があると述べたほか、結束政策、地方開発、公正な移行基金(Just Transition Fund)への追加資金投入に対する強い支持を表明し、多年度財政枠組みに関する未解決の問題、即ち新たな統計データの使用はスロベニアが結束基金から受け取る額に否定的な影響を与えることを忘れるべきではないと述べ、これらの問題が今後の交渉において考慮され、適切な解決策が見つかることを期待すると述べた。

●オーストリア外相のスロベニア訪問【22日】

オーストリアのシャレンベルク外相がスロベニアを訪問し、ロガル外相との間で外相会談を行った。会談後の記者会見において、両者は、新型コロナウイルスの影響で、両国の国境が再び閉鎖されることがないよう全力を尽くすことで一致した。ロガル外相は、ス

ロベニアは最近まで西バルカン諸国に対して国境を開放していたが、状況が悪化したため迅速な措置を執った旨述べ、引き続き状況を注意していくと述べた。一方、シャレンベルク外相は、新型コロナウイルスに関するオーストリアの措置について説明し、オーストリアは国境開放の決定の際には、その国の新規感染者だけでなく、どの国に対して国境を開放しているか等の要素も考慮に入れていると述べた。その他、両者は、二国間の経済分野での協力の重要性や不法移民対策等について意見交換を行った。

●ブルドー・ブリュニ・プロセス会合の延期【26日】

大統領府は、西バルカン地域の安定と発展に向けた対話促進を目的として毎年開催されている「ブルドー・ブリュニ・プロセス」会合を延期すると発表した。本年は、パホル大統領がホストして6月29日に会合を実施予定であったが、バルカン諸国における新型コロナウイルスの感染者増加を受けて延期を決定した。なお、次回会合の日程は現時点では未定となっている。



ブルドー国際会議場 (www.brdo.si)

●ロガル外相、三海域協カイニシアティブのテレビ会合に出席【30日】

30日、ロガル外相は、三海域協カイニシアティブのビデオ会合に出席した。同イニシアティブは、中・東欧地域における対話及び南北連携を目的として、2015年に発足したイニシアティブで、中・東欧地域の12か国が参加している。会合では、地域における運輸、エネルギー及びデジタル分野等の国境を越えた連結にかかる投資事業の重要性につき協議された。ロガル外相は、本年10月にエストニアの首都タリンで開催される同イニシアティブ首脳会合に向けての準備状況に触れ、新型コロナウイルス危機後の経済再建のため、サミットの傍らでビジネスフォーラムを開催するための積極的なアプローチを要請した。

経済

【経済一般、指標・統計】

●OECDによる経済見通し【10日】

10日、経済協力開発機構(OECD)は、最新の経済成長予測を発表し、スロベニアの本年の経済成長をマイナス7.8%、悲観的なシナリオの場合にはマイナス9.1%と予測した。一方、2021年については、4.5%のプラス成長、新型コロナウイルスの第二波が押し寄せる場合には1.5%のプラス成長と予測した。

●5Gに関する米国との共同宣言署名の可能性【12日】

スロベニア通信は、非公式情報としつつ、スロベニアが5Gに関する米国との共同宣言署名の可能性を検討していると報じた。スロベニアメディアに出回った共同宣言案では、安全な5Gネットワーク構築に際し、必要なセキュリティ上の条件が数多く挙げられている。具体的には、出資構成の透明性、知的財産権の尊重、ガバナンスの透明性に関する法令の遵守等を含め、プロバイダー及び関連企業は十分な審査を受ける必要があると記載されている。また、同宣言案では中国ファーウェイ社の名前は明記されていないが、同宣言によりスロベニアにおける5Gネットワーク構築への同社の参加が制限される可能性があるとのこと。一方、スロベニア政府は、同宣言案に関してコメントを出しておらず、また、コリトニク公共行政大臣も、「政府も自分自身(コリトニク大臣)も5Gプロバイダーとしてのファーウェイ社に対して公式な立場を有していない」と述べている。また、ファーウェイ社のスロベニア代表は、「スロベニア政府が米国との間で5Gに係る宣言に署名するという情報に公式に接したことはなく、また、スロベニア政府がファーウェイ社に対してスロベニアにおける同社の活動や経営に関連する照会や否定的な言及を行ったこともない」と述べた。



(Photo: Xinhua/STA)

●S&P、スロベニアの格付けを「AA-」で据え置き【15日】

格付け会社スタンダード・アンド・プアーズ(S&P)は、最新の格付けにおいて、スロベニアの長期格付けを「AA-」で維持する旨発表した。この理由として、S&Pは、本年、新型コロナウイルスの影響を受けて、欧州を含めた世界経済状況悪化の見通しがなされている中、スロベニアは2015年以降の公的債務の減少、民間企業の資本増強等、一定のバッファが確保できており、一時的な経済危機の影響が長期に及ぶことなく復活する見込みであることを挙げた。

●「欧州イノベーション・スコアボード」2020年版の発表【23日】

欧州委員会は、科学技術・イノベーションに関する指標「欧州イノベーション・スコアボード」の2020年版を発表した。これによると、スロベニアは2012年時と比較するとパフォーマンスは下がったものの、「人的資源」、「企業投資」、「(官民協力などの)リンケージ」等の項目で高い評価を得た。一方、「ファイナンス・支援」及び「販売へのインパクト」については低評価となった。スロベニアはEU加盟国内で15番目の評価であり、首位はスウェーデン、2位はフィンランド、3位はデンマークと北欧諸国が上位にランクインした。

【企業、産業の動向】

●コペル港、コンテナターミナル拡張工事に関する契約に署名【4日】

コペル港湾会社は、建設会社「Kolektor」社との間で、コンテナ埠頭の拡張に関する契約書に署名した。同拡張工事は、2段階に分かれており、第1段階は、埠頭の長さを98.5メートル、幅を34.4メートル拡張するもので2021年3月までの完工が予定されている。第2段階は埠頭南方の倉庫エリアを拡張するもので、2022年上半旬の完工が見込まれている。



(Photo: www.luka-kp.si)

●スロベニア11都市がスマートシティプログラムの公募に応募【4日】

欧州委員会が資金拠出するプログラム「100 Intelligent Cities Challenge」の公募に、スロベニアの11都市が応募した。同プログラムは、新技術や持続可能な戦略を開発する100の革新的なスマートシティ間のネットワーク構築を目的としたイニシアティブで、スロベニアからは、ツェリエ、リュブリャナ、マリボル、クラン、コペル、ノヴァ・ゴリツァ、ノヴォ・メスト、プトゥイ、スロベン・グラデツ、ヴェレニエ、ムルスカ・ソポタの11都市が応募した。応募内容は、行政のデジタル化に関連するものが中心だが、その他にもスマート・持続可能なモビリティ、生活の質向上のためのデジタル支援、デジタル化移行に必要な教育・トレーニング等も含まれている。

●中国ハイセンス社、テレビ製造計画を発表【15日】

15日、中国ハイセンス社の子会社であるゴレニエ（家電製造）は、ハイセンス社がヴェレニエ市における新たなテレビ製造ラインの設置を正式に決定した旨のプレスリリースを発表した。同プレスリリースによると、新たなテレビ製造ラインは、既存の生産拠点内に設置され、2021年1月の生産開始が予定されている。また、新たなテレビ製造ラインの従業員数は350人となる見込みで、初年度は150万台、その後、段階的に増産して年間最大400万台を生産する予定のほか、同製品は、欧州向けのハイセンス・ブランド製品として販売される予定。先般発表されたゴレニエ社の再編において解雇される従業員は、その資質と能力に応じて、新たな生産ラインにおけるポストに応募するための推薦書を申請する機会があり、新たな従業員の選定過程において、同様の能力を持つ候補者がいた場合は、ゴレニエ社の元従業員を優先的に雇用するとされている。

新型コロナウイルス関連情報

●6月末時点におけるスロベニア国内の新型コロナウイルスの感染状況【30日】

6月30日時点において、スロベニア国内で新型コロナウイルスへの感染が確認されている人数は計1600名で、死者は計111名となっている。スロベニア国立公衆衛生研究所が発表している30日時点での地域別感染者は以下となっている。

地域	感染者数
スロベニア中心部	456
ドレンスカ・ベラクライナ地方	159
サヴィンスカ地方	314
ポドラウスカ地方	137
ゴレンスカ地方	104
ポムルスカ地方	190
オバルノ・クラシュカ地方	44
ゴリシュカ地方	28
コロシュカ地方	56
プリモルスコ・トランスカ地方	40
ポサウスカ地方	16
ザサウスカ地方	36
その他調査中	20

●スロベニア外務省、海外渡航中止勧告を引き下げ【1日】

スロベニア外務省は、新型コロナウイルス流行以降発出していた海外への渡航中止勧告の引き下げを行った。これまでは、いかなる海外渡航も中止すべき旨の勧告を行っていたが、今回の引き下げにより、勧告文は以下のとおりとなった。

「新型コロナウイルスの感染の可能性は依然として存在するところ、海外渡航を希望するスロベニア国民は、特に渡航ルート of ウイルス感染状況に関するニュースをフォローし、渡航先の入国条件を確認するとともに、現地規則に従うことを勧告する。」

●バス及び鉄道の国際線運行再開【13日】

政府は、旅客交通に関する政令を發布した。これにより、6月13日より、バス及び鉄道の国際線を含む旅客交通の再開が認められた。



(Photo: www.potniski.sz.si)

●政府、500人までの集会実施を一時許可するも、その後再び制限厳格化【15日、30日】

政府は、集会に関する政令を改定した。これにより、6月15日より必要な感染予防措置を講じることを条件に、スポーツイベントを含め、500人までの集会が認められた。

30日、政府は国内における新型コロナウイルスへの新規感染者数が増加していることを理由に、集会人数を原則50人までに設定し、再度厳格化した。なお、例外措置として、国立公衆衛生研究所の肯定的な意見を得ることを条件に500人までの集会が可能。(注:この後、状況の悪化を受けて、スロベニア政府は7月8日に集会人数を10名までとする決定を行っています。)

●国内の人工呼吸器数等に関する保健大臣の発言【18日】

18日、ガンタル保健大臣は記者会見において、現在スロベニア国内には680台の人工呼吸器があり、その内の439台が新型コロナウイルス感染者の治療に使用が可能であると述べ、スロベニアは十分な数の人工呼吸器を保有していると述べた。一方、同大臣は、現時点での課題は、使用可能なICU病床数が257床しかない点であり、これは他国と比較すると3分の1の数字であると述べたほか、もう一つの課題は、人工呼吸器の使用のための訓練を受けた医療従事者の数が不足している点であると述べた。



(Photo: Nik Javšnik/STA)

●屋内の公共スペースにおけるマスク着用が再び義務化【25日】

政府は、25日より屋内の公共スペースにおけるマスク着用を再び義務化した。マスク着用については、5月18日に着用義務化は解除されていたが、感染者が増加傾向にあることから、政府は今回再び着用を義務付けた。なお、屋内の公共スペースに入る場合には、同時に手指の消毒も義務とされている。

●政府による検疫措置の変更【26日】

政府は、入国に際する自主隔離に関する要件を変更した。入国の要件については、自由往来国(緑)、自主隔離免除事項制限国(赤。以後、「制限国」とする)、そのどちらにも該当しない国(黄)によりそれぞれ異なる。詳細は以下のとおり。

(1)自由往来国(緑)

自由往来国(緑)リストに掲載されている国の居住者(滞在許可を持つ外国人含む)はスロベニア入国後、自主隔離義務はない。

(2)制限国(赤)

制限国(赤)リストに掲載されている国からスロベニアに入国する者は、スロベニア国民またはスロベニアに永住権及び一時滞在許可を有する外国人であっても、以下の免除事項に該当しない場合はスロベニア入国後の14日間の自主隔離が義務付けられる。なお、★印が付してある項目については、入国に際して36時間以内にEU加盟国またはシェンゲン加盟国、もしくはスロベニア国立公衆衛生研究所が許可した機関・個人により発行された新型コロナウイルス陰性証明書の提示が必要となる。

- ・越境労働者(日毎)
- ・越境労働者(週毎)(★)
- ・商用のため訪問し、かつ商用目的であることを示す証明書(A1証明書を含む)を提示できる者で、かつ入国後24時間以内にスロベニアを出国する者または新型コロナウイルス陰性証明書を提示できる者(★)
- ・交通分野の運転手で、必要な証明書を提示できる者
- ・運輸分野の運転手で、入国時点から12時間以内にスロベニアを出国する者
- ・トランジット目的で、入国時点から12時間以内にスロベニアを出国する者
- ・外交旅券保持者
- ・スロベニア政府が発行する証明書を有するサービス提供者で、自主隔離を行い同サービスが履行不可となることで多大な社会経済的損失が生じる可能性がある場合(★)
- ・保健、警察、消防、人道的支援物資輸送業者等の公共サービス従事者(★)
- ・スロベニアを含むEU及びシェンゲン加盟国内において医師による診察があることを証明できる者(★)
- ・学業、教育、科学研究活動のため入国することを証明できる者(★)
- ・近親の葬儀参加者で、入国後24時間以内にスロベニアを出国する者で、かつ葬儀の日程・時間等に関する証明を提示できる者(★)
- ・家庭の事情により、近親への訪問のために入国する者で、かつ入国後24時間以内にスロベニアを出国する者(★)

- ・延期が困難な緊急を要する私的な用事のため入国する必要性を証明できる者で、かつ入国後24時間以内にスロベニアを出国する者(★)
- ・国境付近の土地所有者または国境を跨いで土地を所有する者で、かつ農業活動のために国境を越える者(★)
- ・スロベニア軍、警察等の一員で、国外での任務を終えて帰国する者(★)

(3)どちらにも該当しない国(黄)

自由往来国(緑)、制限国(赤)のどちらにも該当しない国(黄)の居住者(滞在許可を持つ外国人含む)は、制限国(赤)と同様に上記(2)の免除事項に該当しない場合はスロベニア入国後の14日間の自主隔離が義務付けられる。一方、スロベニア国民及びスロベニアに永住権及び一時滞在許可を有する外国人は、これらの国(黄)からスロベニアに入国した場合は、入国後の自主隔離義務が免除される。

社会・文化・スポーツ

●コツィヤンチッチ・欧州オリンピック委員会会長が死去【1日】

1日、スロベニア・オリンピック委員会は、欧州オリンピック委員会のコツィヤンチッチ会長が死去した旨を発表した。享年78歳。同会長は、長らくスロベニアの政界、スポーツ界で活躍した人物で、現在の社会民主党(SD)の前身の社会民主統一リスト(ZLSD)党首や国会議員を歴任したほか、1991年にスロベニア・オリンピック委員会初代会長に就任し、2014年まで会長を務めたほか、2017年からは欧州オリンピック委員会会長を務めた。

●スロベニアの食料消費事情【14日】

統計局の発表によると、2019年の平均的なスロベニア人の食料消費量は、野菜123kg、穀物118kg、肉91kg、果物76kg、芋64kg、卵12kg、米4kg、蜂蜜1kgであることが明らかとなった。この数値は前年と比較すると、野菜及び卵の消費量は増加し、それ以外については若干減少した。また、統計局は、各品目の自給率についての数値も発表し、それによると果物の自給率は30%、蜂蜜41%、野菜44%、芋45%となり、比較的高い数値を記録したのは卵(95%)、肉(81%)、穀物(74%)であった。

●国民議会、9月23日を「スロベニア・スポーツの日」に設定【18日】

18日、国民議会は、9月23日を「スロベニア・スポーツの日」に設定する法案を可決した。2000年に開催されたシドニー・オリンピックにおいて、スロベニアが史上初めて五輪で金メダルを獲得した日が9月23日であったことから、同日がスポーツの日を設定された。法案成立を受けて、パホル大統領、ガブロベツ・スロベニアオリンピック委員会会長等が歓迎するコメントを発表した。



(Photo: Daniel Novakovič/STA)

発見！スロベニア

スロベニアの観光・サービス業の魅力を発信！

新型コロナウイルスの影響で、一時危機に瀕したスロベニアの観光・サービス産業ですが、ここ最近、回復の手がかりとなり得る様々な新しい動きが出てきています。今回はそのような動きを紹介したいと思います。

スロベニアのレストランが 初めてミシュランガイドの星を獲得

6月16日、世界的に有名なミシュランガイドが、初めてスロベニアのレストランの格付けを発表しました。

今回の格付けにより、スロベニア国内で、2つ星が1店、1つ星を5店誕生しました。

今回、星を獲得したのは以下のレストランです。

【2つ星】★★

「ヒシャ・フランコ」(Hiša Franko)

住所: Staro Selo 1, 5222 Kobarid

H P: <https://www.hisafranko.com/en/>



【1つ星】★

「ヴィラ・ポドヴィン」(Vila Podvin)

住所: Mošnje 1a, 4240, Radovljica

H P: <https://www.vilapodvin.si/EN/>

「ヒシャ・デンク」(Hiša Denk)

住所: Zgornja Kungota 11A, 2201 Zgornja Kungota

H P: <https://www.hisadenk.si/>

「アテリエ」(Atelje)

住所: Nazorjeva ulica 2, 1000 Ljubljana

H P: <https://www.restavracijaatelje.com/>

「プリ・ロイゼトウ」(Pri Lojzetu)

住所: Zemono 7, 5271 Vipava

H P: <https://prilojzetu.si/en/index.php>

「ダム」(Dam)

住所: Ulica Vinka Vodopivca 24, 5000 Nova Gorica

H P: <https://www.damhotel.si/en>

食の情報サイトが開設

スロベニア観光局は、スロベニアの美食を紹介するための「Taste Slovenia」と呼ばれる新しいウェブ・ポータルを立ち上げました。英語とスロベニア語の両方で、スロベニアの伝統食、一流シェフの創作料理、食に関するイベントや、シェフと生産者のユニークな物語などの情報を提供しています。

レストランガイドはもとより、食を通じたユニークな体験を提供する施設の紹介等も豊富に掲載されています。情報量が多く、読み応えも十分です。



<https://www.tasteslovenia.si/en/>

スロベニアの宿泊施設予約サイトが開設

スロベニアの観光振興の一環として、スロベニアの宿泊施設予約サイト「Moja Slovenija」が開設されました。サイトのアドレスは「www.mojaslovenija.org」です。

同サイトでは、高級ホテルから山小屋まで様々な国内宿泊施設の予約が可能です。現時点では言語はスロベニア語のみですが、管理者によると、今後、外国人観光客誘致の観点から、英語を含む複数の言語での閲覧が可能となる予定と見られています。



www.mojaslovenija.org

Dober Dan (スロベニア語で「こんにちは」) !

毎月変わる社会情勢、いかがお過ごしでしょうか？

EU 各国では日本を含めいくつかの国に対して渡航の門戸が今月から少しずつ開きそうですね。もちろんすぐに観光や全てが元どおりとはいかないでしょうが、今年は世界的に暗い話ばかりですのでこういったニュースは本当に嬉しいです。



さて、僕に限ったことではないですが、どのスポーツでも国際的な大会は軒並み中止。先日、2020年のマウンテンランニングワールドカップ、そしてマスターズの世界選手権が今シーズンは開催されないことが正式に決まりました。

情勢を踏まえればもちろん当然の判断なのですが、頭で理解できることと実際に自分がどう感じるかは別です。当然ながらショックです。今年の目標がなくなり、下手をすればその先いつから再びワールドカップに参戦できるのか…。



僕のレースは白紙になってしまったわけですが、今年は形を変えてレースに関わることに専念しようと思います。ジュニアトレイルランと言って、子供たちを対象にした大会を10年ほど関東近県各地で毎年開催しています。

つい先日の6/27(土)、地元である神奈川県逗子市で様々な感染症対策をし、通常より規模を縮小して大会を開催しました。久しぶりの大会、思い切り走る子どもたちの姿はとて楽しそうで、開催して良かったと心から思うことができました。

この先、このような情勢がどの程度続くか分かりません。けれども、その時々で出来る事を探しながらこれからもチャレンジを続けます。ありがたいことにこの紀行も2年間も続けさせていただきました。ただ、残念なことに渡航の見通しはなく、地域のことや旅のことを書き続けるのは難しいという結論に達しました。勝手ながら2年を持って区切りとし、今後は僕のwebsiteやnoteで過去の旅の記録などを更新していこうと思います。スロベニアに行ってみたい、旅をしたいと思っている方にはきっと役立つはずですので、ぜひ読んでいただけたら嬉しいです。

また昨年からです、スロベニア産のハチミツの輸入販売も始めました。2012年から毎年スロベニアに足を運び、各地で走りたくさんの交流をしました。スロベニアは僕にとって1番のお気に入りの国であることはこれからも変わりありません。いろいろな方法を探しながらスロベニアと関わり続け、日本にスロベニアの魅力を発信し続けていきます。

まだしばらく時間はかかりそうですが、1日も早くスロベニアに渡航できることを願って過ごします。

皆様もどうぞご自愛ください。

宮地藤雄 (ミヤチフジオ)

2013~19 マウンテンランニング日本代表

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●新型コロナウイルス:引き続き最新情報を入手し、感染予防に努めてください。

【参考情報】

1. 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することができます。ぜひご活用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。

<https://www.nijz.si>

(主にスロベニア語)

4. スロベニア政府が、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しました。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

5. 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～(首相官邸)

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>

6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

7. リュブリャナ空港ホームページ

<https://www.fraport-slovenija.si/en/Main>

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらをご確認ください。

●政府(英語) : <https://twitter.com/govslovenia>

●政府(スロベニア語) : <https://twitter.com/vladars>
(英語版と若干内容が異なります。)

●外務省 : <https://twitter.com/mzzrs>

(主にスロベニア語)

●保健省 : <https://twitter.com/minzdravje>

(主にスロベニア語)

●スロベニア当局による国内行動制限措置及び出国に関する制限や手続きのポイントをとりまとめましたので、参考にしてください。

当館HP : https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00037.html

【広報文化班からのお知らせ】

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>